

もり
北の森林
国有林

写真：カラマツの松ぼっくり（駒ヶ岳）

今月のトピック

- ・ 流木災害防止対策の取組について



2019
No. 42



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



平成 30 年度 日高北部森林管理署の流木対策【喜代次沢】



被災当時の状況



完成状況 上段 治山ダム 下段 スリット式治山ダム

◎災害の傾向と対応
近年頻発する、局地的豪雨において、山腹崩壊に伴い発生した流木が下流に大きな被害を与えるなど、激甚化、多様化する山地災害への対応

対応が喫緊の課題となつています。このため、北海道森林管理局では平成29年度より流木災害を防止するため緊急点検を実施して、早急に取組が必要な箇所を事業

平成 30 年度 十勝西部森林管理署の流木対策【久山川】



被災当時の状況



完成状況 スリット式治山ダム

を行っており、その取組について紹介します。
◎平成30年度の取組
流木被害の大きかった清水町、日高町など全道で7市町11地区を選

平成 30 年度 十勝東部森林管理署の流木対策【26点沢】



被災当時の状況



完成状況 スリット式治山ダム

定し、下流への流木の流出を抑制する、流木捕捉式治山ダム（鋼製スリットダム）を設置しました。

◎今年度の取組予定

南富良野町、伊達市など6市町15地区において、流木に起因した災害の未然防止を図るため、平成30年度と同様に治山施設の設定等とあわせ、溪流に堆積し流木の発生原因となる危険木を除去することとしています。



溪流に堆積した流木（今年度に処理予定）



治山シンボルマーク

◎流木捕捉式治山ダム(鋼製スリットダム)の設置

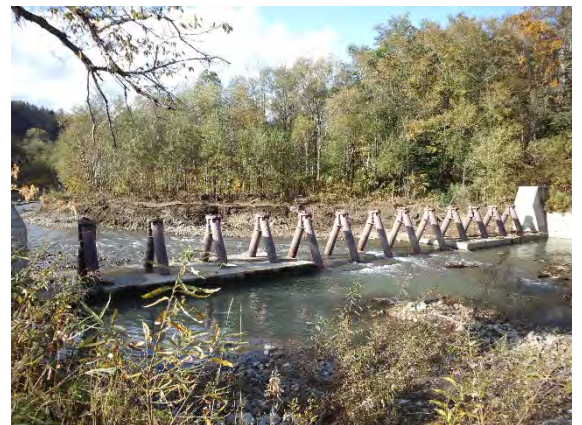
溪流沿いに土石流等で流木化するおそれのある箇所に設置する。

流出した流木を捕捉

捕捉した流木を搬出除去する



流木を除去し次の流出に備える



山地災害防止キャンペーンについて

令和元年度山地災害防止キャンペーンは令和元年5月20日から6月30日の期間で実施しています。

山地災害防止標語

語り継ぐ 治山の役目と被災の歴史

地域課題の解決に向けた取組

～低コストで効率的な森林整備の普及～

留萌南部森林管理署

1 はじめに

留萌南部森林管理署は、北海道北西部の日本海側に位置する1市3町（留萌市・増毛町・小平町・苫前町）に所在しており、市町総面積の過半となる約92千ヘクタールの国有林を管理しています。

留萌流域全体の森林率は83%と比較的高く、そのうち約2割がトドマツを主体とした人工林となっています。

戦後植栽された人工林が成熟を迎えつつある近年では、これまで間伐が主体であった民有林においても、国有林と同様に主伐期に達する人工林が大幅に増加することが見込まれています。

このため、伐採後の確実な再造林を含め一層低コストで効率的な森林整備の推進・普及が留萌地域の大きな課題となっています。

2 低コストで効率的な森林整備の普及

当署ではこれらの課題解決に向け、留萌振興局と連携し様々な取組を行っています。

① 下刈2回刈の見直し

平成25年に、従来ひと夏に2回行っていた下刈りを1回に省略する試験地を設定し、植栽後3年間の植栽木成長量や草本類の植生高を調査してきました。

その結果、これまで画一的に行っていた2回の下刈りを1回に省略化しても植栽木の成長に影響がないことが検証できたことから地域林政連絡会議等での情報提供を通じ見直しの第一歩となったところです。

② 一貫作業システムの普及



誘導伐・コンテナ苗にかか
る現地検討会(平成26年)

留萌振興局や管内各市町村、森林組合、林業事業体、地元林業関係者を対象に平成26年に「誘導伐・コンテナ苗に係る現地検討会」を開催し、伐採・搬出と同時に地拵・植栽を行う「一貫作業システム」

の推進を紹介し、地拵・植栽のそれぞれの機械器具及び作業工程の特徴やメリットを説明し、効率的な森林整備の推進に向けた意見交換を行いました。

③ 低密度植栽

平成28年にヘクタール当たり1500本、1000本の低密度植栽を実施しました。平成30年9月の現地検討会ではそれらの箇所での苗木が生育した結果と経費を比較し、育林コストの削減に向けた意見交換を行いました。

④ コンテナ苗現地見学会

平成30年は、これまでの現地検討会で配布したアンケートで「過去に植栽したコンテナ苗植栽箇所を見学したい」との要望が多かったことから現地見学会を開催しました。



過去に植栽したコンテナ苗
現地見学会(平成30年)

見学会では4年経過した苗木の平均成長量及び残存率等

について説明し、参加された方々にコンテナ苗のメリットである植栽作業の簡便さや植栽可能期間の長さ等について認識してもらうことができました。

3 おわりに

これまで、現地検討会等を通じて説明と意見交換を積み重ねることにより、森林整備の低コスト化の重要性と新しい技術への理解が深まったと思います。

引き続き、国有林が実施している森林整備の低コスト化・省力化、天然力の活用などの取組について、地域林政連絡会議や市町村森林整備計画実行管理推進チーム等各種会議を通じて市町村や民有林関係者へ積極的に情報提供と技術支援を行っていきたいと考えています。



市町村森林整備計画実行
管理推進チーム会議

こんにちは 森林官です!

十勝東部森林管理署
上足寄森林事務所
首席森林官 高橋 智大



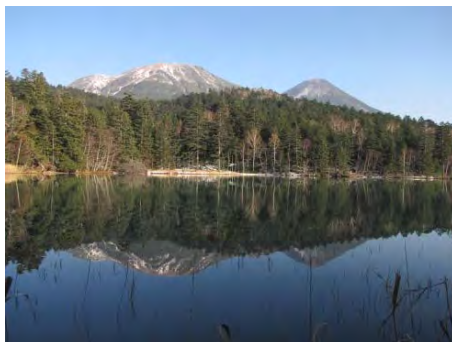
管内概要

十勝東部森林管理署は十勝北東部に位置する国有林約128千ヘクタールを管理し、中央を利別川が流れ十勝川に合流します。上足寄森林事務所は、このうちの十分の一にあたる約13千ヘクタールを担当しています。

森林事務所の特徴

当森林事務所管内は天然林が約7割で針葉樹はトドマツ・アカエゾマツ、広葉樹はミズナラ・シナ・カンバ類等との混交林で形成されており、人工林は約3割でトドマツ・アカエゾマツ・カラマツが主要樹種になっています。また管理区域には、阿寒摩周国立公園の一部が含まれ、昨今の登山ブームにより人気の高い「雌阿寒岳」や「阿寒富士」、五色沼と呼ばれる秘境湖の「オンネトー」等があり、春から秋にかけて大勢の観光客が訪れます。これらの場所は、

足寄町等地元の関係者と情報共有に務め、本署職員・GSS（グリーンサポータースタッフ）の協力による遊歩道の整備、危険木の処理等を行い、遊歩道等の利用者の安全確保を図っています。



オンネトーから見た雌阿寒岳(左)と阿寒富士(右)

森林事務所の仕事

当森林事務所では、春から秋にかけて山火事予防パトロールを実施しながら、地域住民や国有林への入林者に火の取り扱い等注意喚起を行いつつ、林道の点検を行い維持・修繕を実施しています。

国有林と民有林等との境界を管理する境界線の

巡視・調査や、森林の状況を把握するための地況、林況等調査、森林の生態と被害を調べるネズミの調査・エゾシカ影響調査・ヒグマ痕跡調査・希少野生動物の発見・報告等、生物多様性の森林づくりに配慮しながら業務に取り組んでいます。

今年度の業務での優先事項は、数年前から当署管内で大発生しているヤツバキクイムシによるカラマツ造林地被害の拡大防止のため、被害木の早期処分に向けて職員が一丸となって収獲調査業務を実行しています。



UAV(左)とハンディGPS(右)

この仕事では、UAV(ドローン)を使用して遠望・上空から被害地等の状況把握を行い、ハンディG

PSと図面を使って山中での現在位置や進行方向、調査範囲の確認を行うことにより、精度が高く効率の良い仕事ができます。

また最新の安全装備として、遭難した場合に備えて、ヘリコプター等に搭載された受信機へ電波を発信して位置を知らせるといった職員の命を守る心強いアイテムが導入されています。



遭難捜索ヘリサーチビービーの発信器

終わりに

地元の皆さんとのつながりを持ち、理解と協力を得ながら、地域と国有林のパイプ役として貢献できるように業務を進めていくと共に、この自然豊かな森林を後世へ引き継いで行くために、日々精進したいと思います。



第2話
空知森林管理署
北空知支署
川上 貴

5月1日、元号が「平成」から「令和」に変わりました。今回の改元では、出典である万葉集にも注目が集まり、本屋さんでは在庫がなくなるなどブームが起きました。

「令和」の語源となったのは、万葉集の序文である「初春の令月にして、気淑（うるわ）く風和（やわ）らぐ」の部分です。ちなみにこの後の部分では歌会の主催である大伴旅人（おおとものたびひと）が梅の木を前に『さあ短歌を詠もうではないか』と宣言する場面につながります。



同じ梅を見ていたのでしょうか

いにしえの人は「木」というものに何を感じ、照らしていたのでしょうか。万葉集をのぞいてみましょう。

まずは、梅の歌。梅をもち一フにした歌は約120あり

り、萩に次いで多いそうです。令和の語源となった梅花の歌三二首から。

春されば まづ咲くやどの梅の花 独り見つつや 春日暮らさむ（山上憶良）

春が来ればまずは梅が咲く、梅が春の使者という認識を持っていました。また、平安時代より以前は花といえば梅を指しており、それだけ親しまれていたことが分かります。

続いては、桜の歌。数は梅と比べると約40と少なくなっていますが、梅同様古くから親しまれている花です。

あしひきの 山桜花 日並べて かく咲きたらばいと恋ひめやも（山部赤人）



桜には気持ちも重ね合わせます

山の桜が咲き続けていたから桜のことを恋しいとは思

わないだろう。（だから短く咲くのが恋しい）という逆説的な歌です。

このように桜はその短い開花期間を惜しむ歌が多いのも特徴です。北海道だと梅と桜と・・・と全部一緒に咲いてしまつので、なかなか実感がわかない部分もありますが、昔の人は花ごとに気持ちを変えながら観賞していたことが分かります。

最後は、北海道を代表する針葉樹であるマツ。残念ながら万葉集で詠まれているマツは北海道でよく見られるトドマツ・アカエゾマツではなく、アカマツ・クロマツを指しているようです。（もちろん二つのマツも道内にはあります。）

マツという言葉には木の「松」と人を「待つ」という二つの意味をかけて詠んだ歌が数多くあります。



トドマツ

初めて現場の仕事に出て、古代の人が感じたような想いを木に触れる中で共有できればと思います。

その中から一首。
わが屋戸の 君松の樹に
降る雪の 行きにはゆかじ
待ちには待つたむ
（作者不詳）

庭の松の上に雪が降っている。迎えには行かず、ひたすら来るのを待つとしましように、という恋慕った歌です。この他にも数多くの樹種が万葉集では詠まれています。



アカマツ

みんなで森林づくり

詳細は

森もりスクエア

検索

防風保安林を活用した長沼町町民植樹祭

令和元年5月25日(土曜日)、快晴の天気にも恵まれた中、長沼町内の国有林において33回目の町民植樹祭が開催されました。今回の植樹祭は、町の中心部の住宅街にある国有防風保安林で行われ、近隣の方の散歩コースになっているので「花の咲く木も植えてほしい」、「あの山に生えているマツの名前は?」、「防風林内のエゾエノキはオオムラサキの食樹となっているのでできるだけ残してほしい」など、直接地域の方からお話をいただき、有意義な植樹祭となりました。

(空知森林管理署)

えりもワクワク森づくり体験事業植樹祭

令和元年5月28日(火曜日)、えりも町庶野の町有林において『えりも岬の緑を守る会』主催によるえりもワクワク森づくり体験事業植樹祭が開催されました。当日は爽やかな風と晴れ間が広がるなか、えりも町の小学生を含む213人が集まりました。会場では、カラマツ400本、ミズナラ200本、計600本の苗木を植樹しました。毎年参加を楽しみにしている方もおられ、手際よく植樹を行っていました。

(日高南部森林管理署)



「お魚殖やす植樹運動」

令和元年6月3日(月曜日)に当別町道民の森神居尻地区内「水源の森」において漁業、林業関係者など158名が参加し開催されました。この植樹運動は、豊かな森が豊かな海をつくるという考えから北海道漁協女性部連絡協議会を中心に、全道各地で取り組みが始まりました。今回はミズナラ・イタヤカエデ・ニレの苗木各250本合計750本を植樹しました。



(技術普及課)



イワクラ第3回植樹祭

令和元年5月25日(土曜日)、苫小牧市丸山地区の国有林において、株式会社イワクラによる社会貢献の森「環境保全の森」第3回植樹祭が行われました。この場所は暴風雨により被害を受けた森林の整備活動にも取り組みたいとの思いから、社会貢献の森協定「環境保全の森」を平成28年度に当署と締結し、実施しているところです。当日は、天候に恵まれ、気温もどんどん上昇する中汗だくになりながら、カラマツとトドマツの苗木680本を約1時間ほどで植樹しました。

(胆振東部森林管理署)

「童話村」第35回植樹祭

令和元年5月12日(日曜日)、芝ざくら滝上公園にて、滝上町主催の「童話村」第35回植樹祭が開催されました。滝上町長より「かつて千本桜といわれるほど多くの桜で賑わっていたこの公園に、皆さんの手でまた桜を植えていきましょう」との挨拶があり、今年は、ニトリザクラ20本、エゾヤマザクラ80本の合計100本を植樹しました。バリアフリー規格を適用して新設された園路沿いには、エゾヤマザクラが植えられ、頂上付近のこの園路からは、芝ざくら滝上公園全体を見渡すことができます。

(西紋別支署)

国民の森林づくり感謝状

国有林では、毎年森林づくりや森林環境保護、国産材利用の推進など「国民の森林づくり」の推進に貢献いただいている方々や市民団体等に対して感謝状を贈呈しています。



「北海道・木育フェスタ2019」開会式

今年、林野庁長官より「国民の森林づくり推進功労者に対する感謝状」をトムラウシ少年グリーンクラブ育成会へ、北海道森林管理局長より「国民の森林づくり感謝状」を一般社団法人旭川林業土木協会と森林ボランティア「オホーツクの会」に贈呈しました。



新島局長（左）のお祝いの言葉
旭川林業土木協会新谷会長（右から3番目）

5月11日（土）、北海道

庁赤れんが庁舎前において、「北海道・木育フェスタ2019」開会式が行われ、式に併せて新島北海道森林管理局長より、一般社団法人旭川林業土木協会新谷会長に感謝状の贈呈が行われました。

新島局長から、「先人の方々が植えた林が立派になり、災害の拡大を防いでいます。木材が使える時代になった今、しっかりと木を使って、植えていきましょう。」との呼びかけとともに、多様な活動にご尽力頂いてい

ることに對する労いの言葉がありました。

5月25日（土）、森林ボランティア「オホーツクの会」の吉田会長に常呂川森林ふれあい推進センター所長から感謝状を伝達しました。



活動10周年の記念看板の前で森林ボランティア「オホーツクの会」吉田会長（左）

6月7日（金）、新得町立富村牛小中学校でトムラウシ少年グリーンクラブ育成会の関谷会長に東大雪支署長から感謝状を伝達しました。



トムラウシ少年グリーンクラブの皆さんと関谷会長（前列中央）

今月の表紙 カラマツ

北海道の初夏には、美しい風景が数々あります。

なかでも、カラマツの芽吹きの新緑は印象的です。

表紙の写真は、だんご三兄弟のように並んだカラマツの若い実です。

カラマツは、日本原産の落葉針葉樹で、本道には明治30年代に移入されました。

気候や土壌が合い成長が早いことから大規模な造林が行われました。

土木、建築、食器具、梱包材として利用されますが、強度が高く美しい木目が評価され、近年は住宅の建築用材としての利用も高まっています。

秋には、黄金色に輝く林の姿が美しく北海道ならではの風景です。

味覚の秋には、林床に生えるハナイグチの味噌汁もまた楽しみです。

行事・イベント情報

7月6日（土曜日）
国有林モニター
現地見学会

7月19日（金曜日）
17時～20時30分
「カルチャーナイト2019」
（北海道森林管理局）
木工教室等を予定しています。



もり
広報 「北の森林 国有林」6月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電話 011-622-5213
F A X 011-622-5194